

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400022		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい裾野	ユニット名	1階
所在地	静岡県裾野市石脇495-2		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成21年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成21年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が重度化してきても最後まで口から食事が摂れるように、工夫している。ご本人の嗜好調査、飲み込みの状況を確認しながら、とろみをつけしたり、食べやすい大きさにしたりしてその方のペースに合わせて食事をしている。スタッフは一緒に作り、一緒に食べているので、ご本人に合わせた食事を提供できている。また口腔内はいつも清潔に保ち、視覚や臭覚からも食欲を促している。栄養状態と健康状態のバランスはスタッフ全員で意識している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

黄瀬川沿い、富士山を望み、公園に隣接する恵まれた環境に昨年12月オープンしたホームである。開設1ヶ月前から理想のホーム作りのために研修や話し合いを重ね営業に回り準備してきた成果は、1ヶ月あまりで満床という形で現れたが毎日のように入居してくる利用者の対応に全員で奔走した日々は、誰も記憶がないほど慌ただしいものであった。また、地域が開設に反対だった経緯にはホームの仕事を見てもらえないと職員がひとつになって良質のケアに取り組んだ結果、地域の方々にグループホームの意義が理解され沢山の協力をいただけるまでになった。どこまでも利用者本意を貫く管理者と介護に確たる考えを持った職員が取り組むケアは利用者は勿論家族にも優しく、皆「本当の家のように」出入りし、過ごしている。利用者それぞれが穏やかに自己をもっている姿が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400022		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい裾野	ユニット名	2階
所在地	静岡県裾野市石脇495-2		
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成21年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族との絆が強い入居者の方が多く、毎日面会者が訪問してくる。スタッフはご家族やご親族からの意見を素直に聞き入れ、取り入れられることは、改善している。スタッフも現状に満足せず、サービスの向上に意識している。明るく活気があるので、入居している方も笑顔が絶えない生活を送っている。ご家族も行事などにはよく参加してくださっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はオープニングスタッフ全員で、意見を出し合い決定した。毎朝、三唱している。	「優しいぬくもり本当の家のように」を理念に掲げ、毎日唱和して意識付けを図っている。初めて介護職についての職員は優しさを常に念頭に置くことで実践につながるよう努めていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎月ある地域の常会に参加して区の住民として行事にも参加できるようにしている。散歩に出る際には近隣とも挨拶を交わし、野菜などもいただいている。	職員は地域の方々とふれあう機会を積極的に作り出し早い段階で理解を得ることができた。祭りに地域の神輿が出たり、敬老会には近隣の方が手作りの花を贈ってくれ、ホームではテントの貸出し依頼に応じたりと活発な交流がある。	利用者が重度化により行動が制限されることを危惧して元気である今、職員より「もっと地域交流をしたい」との意見があった。幼稚園や老人会との交流等利用者の負担に配慮しつつ広がり期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りの日に合わせてホームの行事として、野外バーベキューなどを行い、近隣の方にも多く参加していただき、入居者の方とも交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催している。スタッフからホームにおけるケアの取り組みについて説明している。ご家族からの意見はできるだけ取り入れて、ホームの運営に活かすように心掛けている。	開設直後より定期的に開催されており、協力医が認知症の話や家族への心理的なフォローをしたり、地域委員がホームの理解を深め地域へ啓蒙してくれたことから古布等が届けられる関係が生まれたりと有意義な会議となっている。	見守りボランティアの協力依頼やホームの力を活かした地域介護教室の開催等、地域とホーム相互に有益な取り組みへの更なる発展を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には、運営推進会議出席の際にホームのケアの取り組みを見てもらうとともに意見交換を行い、連携を図っている。	地域包括支援センターが主催する市内介護保険事業所の会議で情報交換をしている。また、市で二番めに開設されたグループホームとして市議や区長会等の関心も高く、来訪し介護サービスの実情を見てもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の入居者の行動を制限する行為は行っていないが、建物の入口は安全のため施錠し、プザー等により出入りすることとしている。	管理者は利用者の気持ちを思いやることを職員に求めており、職員は利用者に提供できるケアの向上を常に話し合い、拘束とは対極のケアに徹している。玄関は、周囲に大川があることから安全に配慮し家族の承諾のもと施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力的な行為をさせないことはもとより、職員の不注意な言動が利用者の気持ちを傷つけ、虐待となってしまうことがあることを認識させ、利用者の人権を尊重する方針を職員に徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について学んでいるが、現在は対象になる方がいないので、それらを活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必ず説明をして入居してからも、入居者様の状況に応じて話し合いをしている。また、不安や疑問はできるだけ早く、お応えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者様・家族様・地域の民生委員・市役所の担当職員・現場スタッフの参加で、意見交換をしている。	運営推進会議は利用者・家族の出席も多く、意見や提案をもらう場となっている。また家族の訪問時に意思の疎通を図っており、居室の鍵の取付け等家族からの相談は検討し実現している。相談への対応は便りに掲載し周知している。	行事等に家族がボランティアとして参加して大きな力となっている。今後も協力をお願いし、利用者・家族・職員でのホーム運営を実現していただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアでのミーティング・月に1度の全体ミーティングにおいて意見交換をしている。	全体ミーティングが月に一度開催されており、意見交換をしている。立ち上げに携わった職員が多くホームへの思いは一致しており、自由に意見を述べる事が出来る雰囲気がある。現在、障害者体験会が職員から提案されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価の提出を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・社外研修にも参加できるように、勤務を配慮している。資格取得の状況を把握して、情報の提供をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他の事業所の行事にも参加し、同業者とも研修会を通して交流し、事例検討会や相互の活動など情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴を把握し、アセスメントをスタッフで共有している。ご本人の変化を観察し、傾聴に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から、ご本人の今までの様子を傾聴し、要望もアセスメントしている。ご家族がホームに預けていることで遠慮しない関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の的確な状況判断と、優先順位の把握をしながらタイムリーに福祉用具なども導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のできること、できないことを把握し、日常生活内の役割が定着してきている。無理のない範囲で、家事や掃除も行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に参加できる行事を定期的に行っている。ご家族はいつでも面会ができ、スタッフと家族もよく話しをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって大事なものは入居の際に持ち込んでもらい、それにまつわる思い出を大切にしている。また、入居者の方々は、遠方の友人とは手紙のやり取りを通じて交流している。	行事の際には家族のみならず親戚の方々にも出席を促して利用者がゆかりの方と交流できるよう努めている。元気であった頃利用していた温泉や家族が働いている食堂など馴染みの場所への訪問は日常的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係はよく把握して、トラブルが大きくなるように状況を把握している。お互いが支えて良い関係づくりができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の意向で退所された方が、次の施設へ入所する時には、ホームでの情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を聞き、カンファレンスで検討している。困難な場合は、あらゆる情報を収集して、より良い状況になるよう検討している。	利用者個々の暮らし方への希望や意向を職員は良く理解し情報は共有されている。利用者が書きものをする際に職員と一緒にあって利用者の様子や話した言葉をノートに記録しながら気持ちを押し測る取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に到るまでのアセスメントを共有し、生活歴などもいつでも個人カルテで確認できるようにしている。家族や関係者からの情報に基づき、検討・対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察に努めている。体調変化や心理的ストレスなども気付くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	他業種(医師・看護師・歯科医師・歯科衛生士)やご家族からの意見取り入れながら、計画を作成している。	介護計画は本人や家族の希望を基に作成されており、個別具体的であった。モニタリングを行う度に職員の気付きやアイデアがふんだんに盛り込まれており、利用者への思いがひしひしと伝わる様な計画であった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所時にご本人の生活リズムがつかめるまで、センター方式の24時間シートを活用していた。今は個人記録に記入し、気付いたことは申し送りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人がご家族の方に会いたい場合は、ご自宅に伺い、気分転換を計っている。買い物や外出など、できる限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を収集し、お祭りに参加したり、スーパーや外食・カラオケなども利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いままでのかかりつけ医は、ご家族の希望で嘱託医が定期的に往診している。また地域の専門病院を紹介していただくこともある。	週に1度の協力医往診や訪問看護師による体調管理、歯科医師や歯科衛生士による口腔内の清潔保持等、利用者が安心して快適に暮らす事の出来る厚い医療体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の健康状態を把握し、看護師が訪問したときにそのことを伝えて、適切な看護が受けられるようにするとともに、必要に応じて協力医療機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師による連絡体制を確保し、入院先の医療機関への情報提供を早急に行っている。また、嘱託医とも連絡を絶やさないようにして、情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にホームでできることを説明するとともに、利用者やご家族の考え方を伺い、ご希望に添えるよう協力医療機関と連携して支援している。	終末期の対応について、入居時に話し合いを行い本人・家族の意向を確認している。ホームとして出来る限り意向に沿える様対応しており、過去に1名看取りをした際には医師、看護師、ホーム職員、家族等が一丸となって対応に当たった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変の緊急時マニュアルを全スタッフで共有している。また、急変時には医師にも連絡できる体制になっている。その後の対応もスタッフ間で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、消火器の使い方・避難訓練なども行っている。スタッフ・利用者様も訓練に参加して災害時についてのアドバイスをいただいている。	年2回消防署の立ち会いのもと、利用者も参加して避難、通報、消火訓練を行っている。ホームにはスプリンクラーも設置されており、ハード面、ソフト面両面から万一の事態に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけに努めている。	開設後、各居室は内側から施錠できる様改築された。家族来所時、利用者の居室で水入らずの時間をゆっくり過ごして頂きたいとの思いが込められている。また、就寝時には利用者が自ら居室の施錠を行う事で、安心感にも繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望や自己決定を尊重している。言いやすい雰囲気づくりや、どっちがいいかを選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意見を聞き、その方のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容院に土本人の好みを伝えている。季節に合った洋服と一緒に選んで着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか、選択できるように聞き一緒に準備や調理をしている。季節に合わせた行事の食事を提供し、食事も楽しみになっている。	利用者と職員の会話の中から献立が決定し、買い出しから片付けに至るまで利用者自らも役割を持ち、積極的に参加している。調査当日はバイキング形式の昼食で、利用者と職員各々が会話を交わす、笑顔の溢れる賑やかな食卓であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水になりやすい方には水分量をチェックしている。個人によって栄養状態を把握するために食事量もチェックしている。献立表を確認しながら、1日の栄養バランスも見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。週に1回は歯科衛生士によるブラッシング指導を受けている。寝たきりの方でも口臭がしないように清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握し、その方に合った間隔で、トイレの声かけを行っている。尿意・便意があるかも把握し、おむつの方でもポータブルトイレを利用して排泄を促している。	職員は排泄チェック表に細かく排泄状況を記録し、利用者それぞれの排泄パターンを把握している。そこから排泄タイミングを予測し、個別のタイミングでトイレ誘導等を働きかける事で、排泄の失敗を減らし利用者の自信に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の量や形態を確認し、水分強化したり運動したりしながら、服薬も調整している。下剤の種類と効能をスタッフ全員で理解している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に合わせて、いつでも入浴ができるようにしている。また、重度化してもスタッフ二人で対応し、安全に入浴できるように支援している。	利用者の希望に合わせて入浴出来る様、日数や時間等は柔軟に対応している。入浴の拒否がある時には、時間をずらして声をかけたり、外出がてら温泉に出掛ける等様々なアイデアや工夫を凝らし清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて室内温度の調整をしている。いままでの生活習慣を尊重し、個人に合わせたベットや寝具で睡眠をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは個人の服薬を把握し、服薬が変更した場合には、よく観察し、副作用が強い場合には、すぐに医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせて掃除や料理・片付けなど役割を持ってもらっている。行事に向けての準備や毎月のカレンダーなども一緒に作成して、喜んでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩・買い物など希望で行っている。サーカス観覧やカラオケ、バーベキューなどご家族の参加を促し、一緒に出かけたりしている。	日々の散歩や買い物以外にも、外出の機会は多くある。地域で行われる祭や催し物等の情報を聞きつけては早速コンタクトをとり、フットワークも軽く皆で出掛けて楽しい時間を共有している。現在、初の試みとなる1泊旅行に向けて準備が進行中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人と話し合い、お金を所持している方はいませんが、財布は持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があったときは、利用者へ取次ぎ、話をさせていただいている。暑中見舞い等を出し、返信が届く人もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、掃除を行っている。清潔感を保ち、不快な音や匂いがないように空気の入替えなどを行っている。季節に応じた掲示物の作成をし、時季のお花も飾っている。	ホーム内は明るく清潔で、空気の淀みもない快適な空間であった。清掃には毎朝利用者も参加しており、皆の力で快適さを維持している。共用空間にはイベントでの写真や共同制作の貼り絵等が飾られていて、見る者の目を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファを配置している。気の合った同士で、話をしたり歌を唄ったりしている。また、読書している人もみられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込み、動線を配慮した家具の配置を行っている。	入居時に利用者それぞれが筆筒、ソファ、仏壇等思い思いの品を持ち込んでおり、個性の感じられる居室となっていた。家族が用意してくれたというファミリーコンピューターでゲームを楽しむ利用者もあり、真剣な眼差しが印象的であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室入り口には名前を掲示している。廊下や階段には手すりがあり、自由に行き来ができるようになっている。屋内では、自分の足で歩行を促して、見守り支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はオープン当初、スタッフ全員で意見を出し合って「どんなホームにしたいか？」決定した。それを毎朝、三唱している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板で地域の行事を把握して参加している。散歩コースや公園などで、近所の方と毎日、挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りの日に合わせてホームの行事として、野外バーベキューなどを行い、近隣の方にも多く参加していただき、入居者の方とも交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所から2カ月に1度、定期的に行っている。ご家族からの意見、外部からの意見をフィードバックしている。必ず、現場のスタッフも参加して、出られないスタッフは会議録を回覧している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方に運営推進会議に参加してもらい、事業所内を見ての率直な感想など発表してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の利用者の行動を制限する行為は行っていないが、建物の玄関は暗証番号で施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力的な行為をさせないことはもとより、職員の不注意な言動が利用者の気持ちを傷つけ、虐待となってしまうことがあることを認識させ、利用者の人権を尊重する方針を職員に徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について学んでいるが、現在は対象になる方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項等の説明を行い、納得していただいている。入居後も不安や疑問がある場合は十分説明し、その解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者・ご家族・地域の民生委員・市役所の担当職員・現場スタッフの参加で、意見交換をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、各フロアでのミーティングや毎月の全体ミーティングで職員と意見交換を行い、提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価の提出を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・社外研修にも参加できるように、勤務を配慮している。資格取得の状況を把握して、情報の提供をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他の事業所の行事にも参加し、同業者とも研修会を通して交流し、事例検討会や相互の活動など情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前のアセスメント情報をスタッフで共有している。入居してからはご本人の様子をしっかり観察し、不安のないようにコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報も共有しながら、ご家族の不安も傾聴している。ご家族との関係も途切れないように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神的不安をできるだけ早く取り除けるように、見守りをしながら、なじみの関係を築けるように、関わっている。ご家族に面会していただき、少しでも一緒に時間を過ごしていただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人は、ホームが自分の居る場所だと認識しているので、入居者同士が支えあいながら生活している。スタッフはさりげなく支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も利用者も一緒に参加できる行事を通して、ご家族同士の交流ができています。スタッフも家族の絆を尊重している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの交友関係が途切れないように、気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしている。また、なじみの物や家具、写真なども持参してもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階2階フロアの交流もあり、各フロアでは共有スペースでレクレーションなども行っている。時には1人が孤立しないようにスタッフが関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった利用者様の葬儀には出席している。ご家族の心境も理解しながら、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスでは、利用者の思いや希望を、行動から予想し、ご本人の思いを共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族には、入所時にセンターシートに今までの暮らしを記入していただき、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を観察して、身体的変化、精神的変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフはカンファレンスの前に情報を収集するためにモニタリングをしている。様々なアイデアを即、取り入れるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人カルテとワーカー日誌に記載して、1日2回の申し送りをしている。スタッフは記録を確認する癖をつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分だけの意見にとらわれず、様々な意見を聞きながら、日々の日課の中で柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には参加し、利用者のなじみのスーパーなどにも買い物に行っている。よく利用していた温泉や食事処にも一緒に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な嘱託医の往診がある。利用者の身体の状態を把握し、適切な医療を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診前には、看護師が訪問し、身体の変化などを観察してもらい、情報を交換している。巻き爪や傷の処置も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関への情報提供は行っている。また早期治療して、早期に退院できるようにソーシャルワーカーと、連携をとっている。ホームで対応できるかどうか、面会時にアセスメントしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	口から食事が取れなくなった場合、医師を含め、ご家族とケアワーカーと管理者と話し合いを行っている。事業所でできる限りのことはするが、ご家族の協力も促し、チームで共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを全スタッフに共有し、緊急時には、医師に連絡ができる体制になっている。救急搬送する場合も管理者に連絡している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで、消火訓練・避難訓練を行っている。スタッフ・利用者とも訓練に参加している。今後も定期的の実施していく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室とトイレには、内側から鍵がかげられるようになっており、ご家族の面会や一人になりたいときは、利用者が鍵をかけ外側から声をかけると開けてくれる。また、スタッフが入る時にも必ず、ご本人に了解してから入っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でご本人からの希望や要望を傾聴している。何か訴えがあるときは、できる限りその方の思いに応えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に行きたい場合は、散歩や買い物に行き、ゆっくりしたときは、居室で休むなどしながら一人ひとりの年齢や体力に合わせて対応している。天気や季節にも充分、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が愛着のある服を自宅からもってきていただき、自分で選ぶ支援を行っている。ブローチやスカーフなどもして外出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物をしながら何が食べたいのかを聞いている。利用者と一緒に作りながら、味付けも楽しみながら準備をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が不足しないようにチェックしている。また、血圧が高い方には、塩分を控えた薄味にしたりして栄養バランスも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、毎食後口腔ケアを自分でできる方は、仕上げをおこなっている。歯科医師の往診や週に1度のブラッシングで義歯や口腔内の状態を確認してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握して、その方に合った時間での声かけや誘導を行っている。排泄の失敗を減らして、自らトイレに行くようになった方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯に寒天や麦などを使用したり、ヨーグルトや牛乳・食物繊維などで、排便を促している。運動と水分を取っているが、個人に合わせて下剤を使用して予防もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用して、リラックスして入浴している。ご本人の希望に合わせてすきな時に入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度調整をして清潔なリネンの提供をしている。季節に合わせて寝具も衣替えをするように家族に促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内研修の薬学講座に参加し、副作用についても学んでいる。スタッフは利用者の服薬を把握して症状の変化は申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割が決まってきた。できるだけその方に合ったできること・楽しいことを探し、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や買い物で外出する機会は多いが、季節に合わせた外出もしている。ご家族にも協力してもらいながら、動物園・家外バーベキュー・カラオケBOX・夏祭り・敬老会など出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の上で、少額のお金を持っている。外出した際に自分で、好きな物(お菓子・パン・アイスなど)を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に暑中見舞いを出している。必要に応じて電話をかけられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の掃除は、利用者全員が日課となって居室や廊下・リビング・洗面所など役割で行っている。毎月のカレンダーを作成して掲示したり、外出したときの写真なども掲示して、なじみの空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファがあり、気のあった同士が会話できるようになっている。リビングでは歌謡曲のDVDなども鑑賞している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から使っていた家具を持ち込み、ご本人がなじみの物を置いてある。TVがすきな方は、居室にも置いてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室の入り口には、名前を掲示しているが、目印もつけて工夫している。フロアから外にでる際は、階段が危険なので、転倒しないように柵をしてあるが自由に行き来ができる。		